

池田  
觀述  
纂

修身小學讀本

中等科第六級  
卷七

77

K110.1  
153a  
2

K110.1

153a

明治十五年七月再版

從四位福羽美靜閱 三尾重定刪定  
東京孝師 那珂通世校正 池田觀纂述  
範學校長

# 修身小學讀本

版權所有

東崖堂刊行

## 緒言

此書中ニハ孝感信義慈敬陰德報應等ノ目  
ヲ攝ルル母章ニ古今ノ忠臣孝子及ヒ卓絶偉  
行ノ說話ヲ摘録ス之ヲ前卷ニ比スレバ稍  
其ノ文旨ヲ精密ノ地ニ進メ兒童ヲシテ一層  
其ノ徳性ヲ發舒セシメンコトヲ旨トシ中等  
學科第六級生ノ用ニ供スルモノトス

修身小學讀本卷之七

福羽美静 閱 三尾重定 刪定

那珂通世 校正 池田 觀纂 述

第一章 總論

學校ハ人ニ幸福ノ種ヲ蒔キ付クル所ナリ。  
幸福トハ何ソ。幸福トハ家内和合シテ。富裕  
ヲ極メ。且人ニ敬ヒ尊バル、ノ類ヲイフ。  
苟モ之ヲ得ント欲セハ。其ノ時節ヲ過ラス。  
其ノ種ヲ蒔クベシ。

# 2頁 欠

故ニ必幸福ヲ得ント欲セハ。幼穉ノ時ヨリ  
學校ニ入りテ。教師ニ依頼スヘキナリ。  
其ノ幸福ノ種トハ。智識ヲ開キ。心ヲ正ウシ。  
身ヲ修ムルヲ以テ根原トス。  
其ノ智識ヲ開クトハ。善ト惡トノ區別ヲ辨  
へ。人タル者ノ。必為スベキ務ヲ知リ。其他總  
テ。事物ノ本源。正理ノ區分ヲ審明シ。何事ニ臨  
ミテモ。斯クスレハ。首尾ヨク落着クヘシ。コ  
レニテハ。到底為シ遂グルコト。能ハヌナド

等ナルニ。一人ハ唯一心ニ。教師教ヘヲ。覺工  
ンコトヲ志シ。今一人ハ。獨樂ヲマハシ。紙寫  
ヲ揚グル。コトヲノミ思ヒテ。書物ヲ讀ム所  
ニ。心ノ在ラザルユエナリ。  
心ハ一身ノ主宰ニテ。耳。目。鼻。口。手。足等。皆ソ  
ノ心ノ指揮ヲ受ケ。働クベキモノナレバ。心  
正シク。惡念妄想ノ。萌シナケレバ。耳ハ何程。  
惡キ聲ガ聞キタクトモ聞クコト能ハス。目  
ハ何程。惡キ色ガ見タクトモ。見ルコト能ハ

ズ。鼻ハ何程惡シキ臭ヒガ嗅ギタクトモ。嗅  
グコト能ハズ。口ハ何程惡キコトヲ言ヒタ  
クトモ。言フコト能ハズ。手モ足モ何程惡キ  
物ヲ執リ。惡キ處ヘ行キタクトモ。執ルコト  
モ。行クコトモ能ハザル故ニ。自ラ其ノ身修  
リテ。人ノ必為スベキヲ為シ。行フベキヲ行  
ヒ。得ラル、モノナリ。  
然ルニ。心正シカラザレバ。却ツテ耳目鼻口  
手足等ノタメニ。指圖セラル、コトニナリ。

其ノ好ミ欲スル處ニ從ヒテ。何程ノ惡キ  
事ニテモ。心ハ最早頓着セズ。人ノ為スベキ。  
大節ノ務ヲモ缺キ。天理ニ背キ。遂ニ困窮卑  
屈ニ陥リ。家ヲ敗リ身ヲ亡ボシ。所謂ル幸福ヲ  
受クルゴトハナラヌモノナリ。  
サレバ。其ノ耳目鼻口手足等ヲ。自在ニ指揮  
セント欲セバ。先其ノ心ヲ正ウシテ。智識ヲ  
開キ事物本理ヲ。辨へ知ルベシ。  
サテ其事物ノ本理ヲ。辨へシルニハ。必學校

二入り。教師ノ教ニ隨ヒテ。日夜間斷ナク。勉強スルニ在リ。是ノ故ニ。學校ハ人ニ幸福ノ種ヲ蒔ク所ナリトハ謂ヘルナリ。  
世ノ人徒ニ遊惰ニ耽リテ。此ノ幸福ノ種ヲ蒔クコトヲ知ラズ。唯人ノ幸福ヲ見テ。之ヲ羨ミ。我レ薄命ニシテ。斯クノ如キコト能ハズトテ。遂ニ斷念スルモノアリ。コレ自ラ我が身ヲ棄ツルナリ。後進ノ幼穉輩。能ク此ノ心ヲ矯正シ。務メテ學事ニ倦ム勿レ。

第二章 孝感

人ノ名譽榮昌ヲ極ルニ至ルハ。才藝智術ノ然ラシムルニ非ス。才藝智術固ヨリ榮昌ノ基礎ヲ建ル無キニ非スト雖。能ク此ノ地ニ達セシムル者ハ。更ニ一種ノ至徳アリ。父母ニ孝順ナル即是ナリ。親ニ至孝ナル者ハ。必ず許多ノ福祥ヲ受ク。孝ノ一徳最モ天地神明ニ感通シ。人ノ愛寵ヲ得ル者タルヲ信ズルニ足レリ。故ニ才藝智術ニ長スル者ト雖。此

ノ一徳ヲ欲クトキハ。必發達滌昌ヲ得ルヲ能ハサルベシ。左ニ和漢ノ孝子傳ヲ摘録シテ。其証ヲ示スベシ。

昔美濃國多藝郡ニ孝子アリ。名ヲ源丞内ト云。樵蘇ヲ業トシ親ヲ養フ。貧窶最甚シ。父麩麩ヲ嗜ム。孝子毎ニ饜カサルヲ苦ム。一日孝子山ニ入り。誤テ巖際ニ墜ツ。傍ニ石泉ノ其色酒ニ似タルアリ。試ニ掬飲スルニ芳醺甘

美ナリ。孝子大ニ之ヲ喜ビ。日ニ挹テ父ニ供ス。挹ムト多ケレト。而モ竭キズ。事竟ニ朝廷ニ聞エ。畏クモ元正帝。ソノ地ニ御幸シ。酒泉ヲ覽テ曰。天地ノ神明彼カ至孝ヲ感納シ。コノ嘉瑞ヲ顯ハスト。叡感淺カラズ。因テ孝子ニ官ヲ授ケ。泉ヲ名ケテ養老ト爲シ。且年ニ號シ。靈龜ヲ改メテ。養老トセラレタリ。

又筑前ノ某郷ニ難波部ノ安良賣トイヘル



者アリ。善ク父母ニ事フ。父母没シテ後常ニ往テ塚ヲ拜シ。朝夕哀ヲ盡ス。年十六歳ニシテ宗像郡ノ大領外正七位上宗像朝臣秋足ニ嫁ス。秋足蚤ク逝ス。遠近之ヲ聘スレドモ死ヲ誓テ應ゼス。其ノ孝烈實ニ嘉スベシ。時ニ朝廷詔ヲ下シテ位ニ叙シ。戸田租ヲ免ゼラレシトゾ。

後漢ノ姜詩ハ廣漢ノ人ナリ。母ニ事ヘテ至

孝ナリ。妻ノ龐モ亦其母ヲ奉順スルコト尤篤シ。母常ニ江水ヲ飲ムコトヲ好メリ。其水舍ヲ去ルコト六七里ナルニ。妻常ニ流ニ泝リテ之ヲ汲ミタリ。

一日風ニ値ヒテ早ク家ニ還ルコトヲ得ザルコトアリ。母渴スルコト甚シ。詩其ノ妻ヲ責メテ之ヲ出セリ。妻隣舍ニ寄止シ。晝夜紡績シテ珍饈ヲ市ヒ。隣母ヲシテ其姑ニ遺ラシム。斯クスルコト久シケレバ姑怪テ隣母

二其ノ故ヲ問フ。隣母具サニ。其ノ妻ノコト  
ヲ以テ。對ヘケレバ。姑其ノ妻ノ志ニ感慙シ  
テ。呼ビテ我が家ニ還シタリ。コレヨリ妻ノ  
恩養愈謹シメリ。

姑魚鱠ヲ嗜メリ。故ニ夫婦常ニ力作シテ。鱠  
ヲ供シ。隣母ヲ呼テ之ヲ共ニセリ。一日舍ノ  
側ニ湧泉アリ。其味江水ノ如シ。而シテ毎日  
輒雙鯉ヲ出セリ。常ニ之ヲ以テ。二母ノ膳ニ  
供セリ。

時ニ赤眉ノ散賊。詩が里中ヲ經過セシコト  
アリシニ。皆兵ヲ弛ベテ。大孝ヲ驚カサバ必  
鬼神ノ怒ニ觸レント云ヘリ。時ニ歲荒レ穀  
物熟セザリケレバ。賊乃詩ニ米肉ヲ遺リ。之  
ヲ慰メケリ。詩之ヲ受ケテ食ハズ悉ク之ヲ  
地ニ埋メタリ。比落之ニ因テ。其安令ヲ蒙ム  
レリ。永平ノ初メ。孝廉ニ舉ゲラレ。郎中ニ拜  
シ。江陽ノ令ニ除セラレタリ。

陳ノ蔡徵七歲ノ時。母ヲ失フ。喪ニ居ル事成

人ノ如シ。又繼母劉氏ヲ敬禮ス。劉氏性悍忌。微  
ヲ遇スル苛酷ナリ。然レ氏供侍益恭謹ニシテ。  
毫モ怨色ナシ。其父景歷深ク之ヲ感ズ。

後漢ノ蔡順字ハ君仲。汝南ノ人。幼ヨリ孤ニ  
シテ。母ヲ養ヘリ。母終リテ未葬ラザルニ。里  
中ニ災アリ。火將ニ其舍ニ逼ラントス。順棺  
ニ伏シ。號哭シテ天ニ叫ブ。火遂ニ越エテ他  
ノ室ヲ焼ケリト云フ

太守韓崇召シテ。東閣ノ祭酒ト爲セリ。母平

生雷ヲ畏ル。母亡シテヨリ後。雷震アル毎ニ。  
順輒冢ヲ圍リ。順此ニ在リトテ泣ケリ。崇  
聞キテ。輒車馬ヲ差メ。墓所ニ到ラシム。後孝  
廉ニ舉グ。順遂ニ之ニ就カズ。

王莽ノ末。天下大ニ荒ス。順嘗テ椹ヲ拾ヒ。赤  
黒器ヲ異ニシテ。之ヲ盛ル。赤眉ノ賊之ヲ見  
テ。怪シ之ヲ問ヘバ。黒キ者ハ。母ニ奉ジ。赤  
キ者ハ。自ラ食スルナリト曰フ。賊其至孝ニ  
感シ。乃米二斗。牛蹄一隻ヲ遺レリト。

仙真小學讀本 卷七  
夫レ天ハ純正ニシテ善ニ與ス。人此ノ美德アル。何ゾ之ニ感ジテ其ノ美ヲ賛ケザラン。故ニ姜詩ノ湧泉鯉魚ヲ出シ。蔡順ノ哀叫火災ヲ脱レタルガ如キ。其應固ヨリ。當ニ然ルベシ。嗚呼孝順ノ徳ノ大ナル。兇惡猛暴赤眉ノ賊ノ如キモ。遂ニ慈善ノ心ヲ發セシムルニ至ル。亦以テ人ノ本性ノ至善ナルヲ證スルニ足レリ。

第三章 信義

信義ヲ守ルモノハ。求メスシテ名利自ラ來ル。猶影ノ形ニ隨ヒ響ノ物ニ應ズルガ如シ。義ヲ重ンジテ生ヲ輕ンジ。已レヲ忘レテ人ヲ全フスルハ。英雄ノ素志。道ヲ守ツテ行ヒヲ慎ミ。已レヲ棄テ人ヲ救フハ。仁者ノ宿意。信ノ言語ニ於ル。義ノ行事ニ於ルハ。猶軀幹ノ筋骨アルガ如シ。苟モ之レナケレハ。一日モ立ツコト能ハズ。信ハ人倫ノ綱紀ナリ。義ハ人倫ノ本體ナリ。

此二ツノモノヲ欠クトキハ。一家ト雖。治ル  
コト能ハズ。家尚然リ。而ルヲ況ヤ邦國ヲヤ。  
信義ノ重要タル斯ノ如シ。務メズンバ有ベ  
カラズ。

孔子曰。人トシテ信ナクンハ。其ノ可ナルヲ  
知ラズト。凡人ト盟約セシコトハ。必コレヲ  
履行スベシ。其ノ履行スルニ當ツテ。一己ノ  
進退極ルホドノ事アラハ。其ノ理由ヲ明ラ  
カニシテ。悖約ノ責ヲ請謝スベシ。故二人ト

約ヲ結バンニハ。能ク其ノ前後ヲ想省シテ  
輕躁ニ為スベカラズ。子路ノ所謂諾ヲ宿ニ  
セザルトハ是ノ故ナリ。

誓約ノ固守スヘキハ。論ヲ俟タスト雖。不良  
ノ事ヲ約シ。以テ其約ヲ全フセント。欲スル  
カ如キハ。道ニ非ス。若誤テ非義ヲ結約シ。幸  
ニシテ之ヲ悟ラハ。速ニ破斷スベシ。假令恨  
ミヲ其人ニ取ル。アルモ。世ノ公道ニ悖ル  
ト勿レ。

支那ニ鄭叔通トイヘル人アリ。夏氏ノ女ヲ娶シコトヲ約セシカ。尚年モ若カリケレハ。京師ニ上リテ修學シ。數年ノ後歸國シテ其ノ女ヲ迎ヘントセシニ。其ノ女疾病ニヨリテ。啞トナリケレバ。叔通ノ親族相議シテ。他ノ處女ヲ娶シコトヲ勸メシニ。叔通コレニ對ヘテ曰。其議理ナキニ非ザレドモ。一旦約ヲナセシ上。疾發レハトテ。之ニ違フハ義ニアラズ。是我ノ取ラザル處ナリトテ。遂ニ彼

ノ女ヲ迎ヘタリトゾ。

第四章 慈敬

古ヨリ鰥寡孤獨ノ四ノ者ハ。告ルナキノ窮民也。尋常饑者ノ比ニアラズ。故ニ仁慈ヲ為シ。コトヲ欲セハ。宜斯ノ四ノ者ヲ先トスベシ。

人ハ慈愛ノ心ヲ闕クベカラス。苟モ慈愛ノ情ニ戻ルトキハ。天稟ノ才ヲ有シ。偉大ノ業ヲ企ルト雖。其ノ間多少ノ遮碍ヲ生シテ。其

ノ業。其ノ身ヲ保ツコト能ハズ。  
人ノ我ヲ親愛セザルハ。我レ人ヲ親愛スル  
ノ未足ザルガ故ナリ。我レ能ク人ヲ愛セハ  
人馬ゾ我ヲ惡マン。

奥貫五平次ハ。武藏國入間郡河越ノ人ナリ。  
友山ト號ス。近郷ノ豪家タリ少ニシテ江戸  
ニ出テ。業ヲ成島錦江ノ門ニ受ケ。學成テ故  
里ヘ歸ル。寛保中。關東洪水ノ災アリテ。入間  
郡其ノ害ヲ被ル。特ニ甚シク。民舍湮沒。數十

里ニ及ビ。慘狀亦謂フベカラザルニ至ル。五  
平次乃食料ヲ舟ニ積ミ。自ラ糶ヲ操ツテ。村  
落ヲ縱横シ。飢民ヲ求メテ之ヲ薦ゴ。且老幼  
及病者ヲ載セ歸リテ。已レガ家ニ撫養スル。  
數百人即父ニ請フテ曰。大人平素兒ニ誨ユ  
ルニ。儉ヲ以テス。豈此ノ急アル為ナラズヤ。  
願クハ世蓄積スル所ヲ以テ。之カ賑救ニ充  
ント。父欣然トシテ之ヲ許ス。是ニ於テ。盛ニ  
倉廩ヲ設キテ。窮民ヲ賑ス。因テ老少爭ヒ至

リ。門前頓ニ市ヲナセリ。五平次家僕ヲ戒メテ曰。飢者固ヨリ貧ナルニ非ス。謹シテ輕侮スル勿レト。總テ壯少稚者ヲ問ハス。一人ニ米四升ヲ與フ。皆其ノ懇厚ノ辱キヲ謝シ。感泣セザルハ無リケリ。既ニシテ倉庫盡ク。因テ人ヲ四方ニ馳セ。米麦及諸雜穀ヲ買ヒ。又田宅ヲ典資トシテ。其ノ用ニ充テ。冬十月ヨリ。翌年ノ夏四月ニ至テ止ム。仁慈ノ及フ所。四十八村。其ノ惠ヲ受ル者。十萬六千餘人ニ

至ルト云。官殊ニ其ノ舉ヲ嘉シ。錢帛ヲ賞賜シテ。門閭ニ表ス。

其ノ後。明和年間ニ方ツテ。武相上ノ三州。大ニ饑饉シテ。奸民黨ヲナシ。豪富ヲ劫奪シ。民舎ヲ破毀ス。暴虐至ラザル處ナク。將ニ五平次ガ家ニ及ハントス。時ニ一人突出シテ。大ニ其ノ徒ヲ呼ビ。是我ガ奥賢翁ノ邸宅ナリ。曩ニ近邑水災ニ罹リシ時。村落ノ父母兄弟ヲシテ。存生スルヲ得セシメタルハ。實ニ翁



ノ仁慈ニ頼レリ。汝等之ヲ記セサルカトイ  
ヘハ。衆之ヲ聞テ大ニ駭キ。相與ニ顧テ曰。我  
等微力。其ノ高庇ニ報ル能ハズ。何ゾ反ツテ  
虐スルコトヲ得ベケンヤト。皆門外ニ俯伏  
シテ去ル。故ニ四隣。其ノ暴横ヲ免レタリト  
ゾ。嗚呼。慈善ノ人ヲ感動セシムルコト斯ノ  
如シ。勉メ行フベキ事ナラズヤ。

第五章 陰德

陰德トハ。各自本分ノ務メヲ怠ラズ。善ヲ施

シテ。其ノ顯ハル、ヲ欲セサルノ類ヨ云。  
凡ソ德ヲ施シ其ノ顯ハレンコトヲ欲スル  
モノ。誠ノ德ト謂フベカラズ。古語ニ。為テ恃  
マズ。功成テ居ラズ。夫唯居ラズ。是ヲ以テ去  
ラズトイヘリ。是則天地造化ト。其ノ心ヲ同  
ウシ。天下ノ為ニ。其ノ功ヲナシ。自ラ其ノ功  
ニ居ラズ。故ニ其ノ功德。之ヲ無窮ニ傳ヘテ。  
盡クルコトナシ。

自叙論ニ云。凡ソ人ノ患ヲ憂ヒ。人ノ歡ヲ喜

ト。人ヲ憐ミ惠ムニハ。鰥寡孤獨ノ。便ナキ人  
ヲ先ニシ。飢タルヲ救ヒ。凍ヘタルヲ助ケ。老  
者病者ヲ救濟シ。道橋ヲ修シ。人ニ害アルヲ  
除キ。人ニ益アルヲナシ。争ヒヲ和シ。善アル  
ヲ譽メ。小過ヲ宥シ。才藝ヲ舉ゲ薦メ。妄ニ怨  
ミズ。妄ニ譏ラズ。人ヲ侮ラズ。猥リニ禽獸虫  
魚ヲ殺サズ。猥リニ草木ヲ伐ルコトナキ。皆  
是レ陰德ノ一端ナリ。凡陰德ハ。人知ラザレ  
ドモ天道ニ協ヘルヲモテ。後ニハ必我身ノ

幸福トナルモノナリトイヘリ。

備中國。哲多郡。長屋村ト蟹村トノ境ニ。凡四  
五十間ノ斷岸絶壁アリ。其麓ハ河流深淵ナ  
ルヲ以テ。繩ヲ張りテ船ヲ上下シ。僅二人馬  
ノ往來ヲ通ゼリ。其ノ不便且危嶮ナル言フ  
ベカラズ。其ノ長屋村ニ岡本嘉藏トイヘル  
者アリ。匠ヲ業トシ。纔ニ生計ヲタツル小民  
ナルガ。一日慨然。彼ノ往來ノ艱苦ヲ救ハン  
トノ志願ヲ起シ。更ニ家業ヲ勉勵シ。聊カ餘

資アレバ。コレヲ木材釘錐ノ費ニ充テ。崑石  
ヲ剪リ。棧道ヲ架シ。他ニ一錢ノ助金ヲ請ハ  
ズ。一簣ノ搬運ヲ仰カズ。スベテ獨力獨費ヲ  
以テ。之ヲ造營シ。資盡レバ本業ニ復シテ。金  
錢ヲ積ミ。遂ニ庚午ノ三月ヨリ。壬申ノ三月  
ニ至リ。三年ノ間倦怠ナク。身ヲ勞シ。思ヲ焦  
シ。輿馬自由ニ往來スベキノ坦途ヲ開キ。且  
巖下不測ノ深淵ヲモ。流レヲ遮ル岩石ヲ切  
リ。石片ヲ積ミ埋メテ。徒涉スベキ淺灘トス。

サレバ渡船ノ困難ヲ知レル者ハ。其ノ力役  
ノ大ナルニ驚キ。且危險ノ患ナキヲ歡ヲ。旅人  
ノハジメテ通行スル者ハ。其ノ險路タリシ  
ヲ知ラザルニ至レリ。誠ニ希有ノ德行トイ  
フベシ。

星野彌兵衛ハ。上野國水沼村ノ農民ナリ。其  
ノ性篤實ニシテ。家道亦富裕ナリ。祖父耕平。  
父七郎右衛門ヨリ。引續キ貧民ヲ憐ムヲ以  
テ樂ミトス。天保丙申ノ年。國中飢餓死ニ至

ル者多ク。老少流離四散スルニ當リ。豪富ノ家ヲ毀チ。米麥ヲ掠奪セント謀リ。所々ニ集合シテ既ニ暴舉ニ及バントス。此ノ時ニ際シ。彌兵衛父ニ從ヒ。村落ヲ駈ケ廻リ。懇切ニ説諭シテ。貯フル所ノ金穀ヲ散シ。厚ク之ヲ賑救セリ。時ニ彌兵衛年纔二十三。身親ラ金穀ヲ携へ。毎戸ニ分附セシヲミテ皆其ノ容儀ト篤義トニ感銘シ。前非ヲ悔悟セザルナシ。後成長スルニ從ヒ。人ノ為ニ難ヲ解キ危

ヲ救フコト。救舉ニ違アラズ。慶應三年ニ至リ年又凶ニシテ。物價騰貴シ。小民殆窮乏セリ。彌兵衛積年ノ粒穀ヲ出シ。貧家ニ給與スルコト。前凶ノ如シ。衆タノニ餓死ヲ免ガレ其ノ業ニ安ンゼリ。加之維新以來。上ハ朝旨ヲ奉ジ。下ハ時勢ヲ察シ。明治二年ニ至ツテ。頑陋ノ土俗ヲ説諭シ。近村ノ男子ヲシテ。散髮セシメ。向來髮ヲ結ブノ費。一人一年金五十錢ヲ積ミテ。小民家屋葺補ノ方法ヲ建テ。且

ソノ國蠶絲ニ便ナルヲ以テ。大ニ製糸ノ器  
械ヲ設ケ。人ヲシテ其ノ産業ニ就カシム。是  
ニ於テ。其ノ澤ヲ蒙ルモノ。隣郷ニ及ブトイ  
フ。又學校設立ノ旨趣ヲ體シ。衆ニ率先ノテ。  
金千圓ヲ獻納シ。尚四方有志ノ徒ヲ誘説シ  
テ。二千圓餘ノ金額ヲ集メ。以テ小學校創立  
ノ資本トス。其ノ平常ノ所為悉ク公ニシテ。  
決シテ私ヲ加ヘズ。フ、ニ於テ。朝廷其ノ舉  
動ヲ褒賞シ。時計一箇ヲ賜ヘリトゾ。

後漢ノ陳寔ハ。潁川許ノ人。少一シテ縣吏ト  
ナリ。都亭刺佐ト為ル學ヲ好ミテ。坐立誦讀  
ス。縣令之ヲ奇トシ。聽シテ業ヲ大學ニ受ケ  
シム。後太丘ノ長ニ除セラレ。德ヲ修メテ。奉  
仕セリ。一日。吏白シテ訟者ヲ禁ゼント欲ス。  
陳寔コレヲキ、訟ハ以テ直ヲ求ムル所以  
ナリ。然ルニ之ヲ禁ゼバ。理ハタ何ヲ以テカ  
申ベントテ聆カズ。卒ヒニ訟フル者ナキニ  
至レリ。官ヲ去ルノ後郷閭ニアリ。争訟ノコ

ト有リテ。其ノ判正ヲ請ヘバ。則能ク曲直ヲ  
曉譬言ス。敢テ怨ル者ナキノミナラズ。寧口刑  
罰ニ處セラルモ。陳君ニ短セラル、勿レト  
イフニ至ル。時ニ盜アリ。夜其ノ室ニ入り。梁  
上ニ止ル。陳寔コレヲ覺リ。族人ヲ呼ビ起シ  
テ。之ニ訓ヘテ曰ク。人ハ自ラ勉メザルベカ  
ラズ。不善ノ人。未必シモ本惡ナラズ。習性ト  
成リテ。遂ニ此ニ至レリ。梁上ノ君子。即是ナ  
リト。盜卒然地ニ投ジ。枕誓願シテ罪ニ歸ス。陳

# 20頁 欠

野州守都宮ニ新見屋新右衛門トイフ人アリ。米賈ヲ業トシ。家道滋殷富ニ至ル。時ニ親戚ノ者規シテ曰ク。畢生商事ニ奔走シテ。思慮ヲ竭スハ。攝養ノ道ニ非ズ。今幸ニ富裕ヲ致セリ。故ニ請フ商事ヲ斷チ。優遊以テ歳ヲ卒ラハ亦善カラズヤト。新右衛門曰。此議極メテ善シ。但本年秋ニ至ラバ。必大ニ贏利アラシ。是正ニ錯誤セズ。此一好機ヲ了得シ。局ヲ結シテ。間ニ就クベシトテ。延江戸ニ到リ。事

# 22頁 欠

二從フ。果シテ數百金ヲ攫收シ。笑テ曰ク。吾  
レ少壯ヨリ。今ニ至ルマデ。砵々賈ニ屬シ。未  
嘗遨遊スルニ暇アラズ。故ニ聊野情ヲ慰メ  
索ヲ垂レテ還ルベシト。書ヲ馳セテ親姻故  
舊ニ報道シ。拉シテ以テ花月ヲ弄シ。演戲ヲ  
觀ル。至ル所絲肉涌起。銅臭入ヲ醉シムニ至  
レリ。一日永代橋ヲ過ク。時已ニ晡ヲ過ク。人  
アリ踊ツテ水ニ投セントス。電行シテ之ヲ  
拏スレハ。少女子ナリ。是ニ於テ。徐ニ其仔



ヲ與ヘ。且教ヘテ曰ク。速ニ歸リ。事ニ託シテ遲  
緩ヲ謝スベシト。女感泣シテ固辭スル數回。  
強テ以テ之ヲ與フ。乃姓名居里ヲ問ヘハ。笑  
テ曰ク。吾ハ田舎漢ナリト。告ゲスシテ去ル。  
斯クテ數年ノ後。親戚ノ少童三子ヲ率ヒテ。  
深川ニ來リ。八幡ノ祀事ヲ觀ル。山車巧ヲ凝  
シ。歌舞新ヲ競ヒ。看ル者堵ノ如シ。永代橋ニ  
至ル。觀客益填充シ。肩摩踵躡。歩地ニ着ク能  
ハスシテ。自ラ進退ヲ為ス。滿街湧クカ如ク。

又織ルカ如シ。時ニ一女アリ。來ツテ袖ヲ取ル。新右衛門彼レ我ヲ誤認セシヲ察シ。敢テ之ヲ顧ミス。然ルニ女堅ク抱テ放棄セザレハ。新右衛門大ニ怒リ。汝何ゾ亡狀ナルト。痛ク之ヲ叱シタレドモ。時方ニ喧囂。言語達セス。只吻動キ面怒ルヲ見ルノミ。女カヲ極メテ之ヲ率ク。遂ニ小童ト相失シ。橋頭ノ茶肆ニ入ル。女即謝シテ曰ク。君ハ妾ノ恩人ニ非ズヤ。往年此ノ橋上ニ。女ヲ濟ヒ給ヒシ事アルヘシ。其ノ女ハ即妻ナリトイヘハ。新右衛門眉ヲ擡メ。少須ク有テ云ヒケルハ。思ヒ出レハ其ノ事アリ。時暮夜ニシテ容姿ヲ記セス。實ニ御身ハ其ノ人カト。更ニ奇遇ヲ嘆シケリ。其ノ時女涙ヲ浮メ。君ノ賜金ヲ持シ還リ。實ヲ以テ主翁ニ語り。其儘金ヲ呈セシニ。主翁咨嗟久シウシテ曰ク。路人尚然リ。吾レ何ガ之ヲ受ルニ忍ビンヤ。然レトモ之ヲ返スニ由アラズ。吾レ先佞ニ之ヲ収メテ。後為ス

ルヘシ。其ノ女ハ即妻ナリトイヘハ。新右衛門眉ヲ擡メ。少須ク有テ云ヒケルハ。思ヒ出レハ其ノ事アリ。時暮夜ニシテ容姿ヲ記セス。實ニ御身ハ其ノ人カト。更ニ奇遇ヲ嘆シケリ。其ノ時女涙ヲ浮メ。君ノ賜金ヲ持シ還リ。實ヲ以テ主翁ニ語り。其儘金ヲ呈セシニ。主翁咨嗟久シウシテ曰ク。路人尚然リ。吾レ何ガ之ヲ受ルニ忍ビンヤ。然レトモ之ヲ返スニ由アラズ。吾レ先佞ニ之ヲ収メテ。後為ス

コトオントテ。期滿子家ニ歸ルニ及ヒ其ノ  
 金ヲ妾ニ賜ヒ。母子生活ノ資トナシテ。永ク  
 其ノ鴻惠ヲ存セヨトテ。推辭スルヲモ允サ  
 レザレハ。乃之ヲ拝受シテ。具ニ之ヲ阿母ニ  
 告ゲ。相對シテ感泣セリ。因テ心ニ深ク誓ヒ。  
 且神佛ニ祈願シテ。一ノ其ノ人ニ遭ヒ。此  
 ノ洪恩ヲ謝センコトヲ欲ス。何クノ誰トハ  
 知ラザレドモ。其ノ夜粗心肝ニ刻シタル風  
 貌年齒ニ目ヲ注ガバ。所願ヲ達スル期有ベ

明治十五年五月六日 版權免許  
 同年同月 出版  
 同年十一月十一日 再版御届  
 同年十二月 出版

纂述人 池田 觀

出版人 波阜縣平民 山岸 彌平

發兌人 東 富田 彦次郎

大坂東區共濟貳丁目  
五十五番地寄留  
波阜縣平民  
東 富田 彦次郎  
東京京橋區桶町  
壹番地



池田  
觀述

修身小學讀本

中等科第五級  
卷八

K1101  
7a  
8